

平成29年度(第29回)職業能力開発論文コンクールの総評

職業能力開発論文コンクール審査委員長

1. はじめに

平成29年度職業能力開発論文コンクールは、「職業能力開発に携わる方等によって執筆された職業能力開発の実践等に係る論文のうち、優秀な論文を選定しその成果をたたえ、広く関係者等へ周知をすることによって職業能力開発関係者の意識の啓発を図り、職業能力開発の推進と向上に資すること」を目的として、厚生労働省、中央職業能力開発協会、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構の共催により行われました。

2. 応募の状況

今回の応募論文は69本で、その内訳は、都道府県立職業能力開発施設4本、民間3本、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設62本と、前回(平成27年度)と比較して11本の増加となりました。

分野別では、生産・機械分野10本、電気・電子・情報分野9本、建築分野3本、障害者分野9本、職業能力開発分野30本、その他8本と幅広く応募がありました。

3. 総評

平成29年度の職業能力開発論文コンクールは、前回を超える69本の応募がありました。職業能力開発の充実に向けた関係者の積極的姿勢と日々の着実な御努力がうかがえ、望ましいことと感銘を受けました。

それらの具体的内容をみると、職業能力開発の現状と課題を踏まえたさまざまな興味深い取組みが数多くありました。すなわち、テクニカルスキルだけでなく、地域連携、人材育成、キャリア形成支援、障害者支援、訓練手法、ヒューマンスキル・コンセプチュアルスキル向上の取組みなど多岐にわたる職業能力開発に向けた優れた挑戦が、情熱をもって語られていました。

中でも厚生労働大臣賞(特選)に入選した論文「お客様の期待を超える骨太エンジニアの育成 ~技術系新入社員モノづくり体験研修の実践~」は、部門の壁を超えた全社の人材育成への意欲的な取り組みを記したもので、育成に係る課題発掘から見直し事項、今後の取組みまで、入社後の優れた職員育成法が段階的にわかりやすく論じられています。この全社的な人材育成の仕組みは、有益な先行事例として、幅広い分野で貴重な参考になるとおもわれます。

一方で、論文としての最低限の体裁（背景、目的、方法、結果、考察、結論、参考文献等）を整えていないもの、技術に関する記述のみで能力開発の取組みとの関連についての記述が不足しているもの、文献等からの引用が主で独自の調査・研究に基づく記述がないもの、関連資料の不足しているもの、第三者から見て改善の余地が残る惜しい論文も、残念ながら一部に見受けられました。

ご関係の皆様には、以上の点に留意され、今回の受賞論文を参考に、さらなる研鑽を積み、職業能力開発のための努力を継続していただけたらありがたく存じます。

今回熱心に御応募いただきました皆様方にお礼を申し上げますとともに、次回以降の職業能力開発論文コンクールにおきましても、さらに多くの方々から優れた論文を応募していただくことを期待し、総評とさせていただきます。